

89-322



1200600308226

89

322



始



日本鑛山協會資料第三十輯

第四回全國安全週間報告

社團
法人

日本鑛山協會

第四回全國安全週間報告

發行所寄贈本

目次



一 緒言……………三

二 第四回全國安全週間の要綱……………一〇

三 安全週間実施状況……………四〇

四 安全週間の成績……………四〇



第四回全國安全週間報告

緒言



安全週間の目的 現代に於ける産業の隆盛は文化の進展に伴ふ機械力の應用に依る所最も大にして、産業の機械化が常に災害事故の頻發を誘起し従業者の健康に障礙を來す場合少なからざるは周知の事實である。殊に鑛業に於ては近時機械設備應用の發達に随つて災害事故回数のみならず其の程度を増大する傾向にあるは各國共にその例が乏しくない。而して此の災害事故竝に健康障害の原因は概して従業者の不注意作業に對する安全智識の不足に基くものが多い。安全週間舉行の目的は週間中の災害事故を防遏するに止まらず、將來に於ける従業者の注意力を喚起し、安全智識を普及し且つ安全衛生施設の完全を期し、以て災害事故の防止、従業者の健康増進に恒久的効果を齎すことを念とするものである。故に安全週間に際して徒らに週間中の成績のみを焦慮して、故意に災害事故を隠蔽し罹災者の處置醫療を怠るが如きことは安全週間實施の目的を冒瀆するものである。

全國安全週間 全國安全週間は安全運動を全國的に一齊に催して其の主旨目的を強調し、廣く安全運動の向上發達を促し、以て漸次増加の傾向にある災害事故、健康障害を防遏して従業者の福利を増進し、併せて産業の圓滿なる進歩發達に資する爲めに計畫されたものである。本邦に於ける最初

第四回全國安全週間報告

發行所 警備本

の全國安全週間は昭和三年にして全國安全週間聯合會の主催にかゝり、爾來毎年舉行せられて居るが第二回以降は本協會及産業福利協會の主催である。其の経過概要は左の如く災害率の減少等漸次優良の成績を示しつつあるを認める。

全國安全週間經過概要

區分	期	間	主	催
第一回	自昭和三年七月	七月二日 (六日間)	全國安全週間聯合會	
第二回	自昭和四年十月	十月二十六日 (六日間)	財團法人 産業福利協會	
第三回	自昭和五年十一月	十一月七日 (七日間)	同	上
第四回	自昭和六年七月	七月七日 (七日間)	同	上

全國安全週間參加鑛山數

種別	第一回	第二回	第三回	第四回	計
金屬山	六九	六一	六二	六二	二〇四
石炭山	一一	一〇	一二	一二	一八九
石油山	八	三	二	二	一八
其他非金屬山	六	七	七	七	二四
合計	九六	八一	八三	八三	三〇〇

全國安全週間災害率

(稼働延員數一、〇〇〇人當罹災者數)

區分	死亡	重傷	輕傷	微傷	計	備	考
第一回安全週間 平時(第二回前六箇月)	〇〇二	〇二六	一〇九	〇三三	一六五	稼働延員數 昭和三年七月二日より七月七日まで	一、〇八二、一〇四人
第二回安全週間 平時(第三回前六箇月)	〇〇一	〇四四	一四八	〇三二	二二六	稼働延員數 昭和四年四月一日より九月三十日まで	二九、四八四、一三六人
第三回安全週間 平時(第四回前六箇月)	〇〇二	〇一九	〇八〇	〇四八	一五九	稼働延員數 昭和五年四月一日より九月三十日まで	一、〇九一、〇二一人
第四回安全週間	〇〇三	〇四三	一三六	〇九八	二七〇	稼働延員數 昭和五年十一月一日より十一月七日まで	二五、三四六、三〇三人
第一回安全週間	〇〇二	〇二八	〇七六	〇三七	一三三	稼働延員數 昭和六年一月一日より六月三十日まで	八九八、七二三人
第二回安全週間	〇〇一	〇二二	一四四	〇六三	二二〇	稼働延員數 昭和六年七月一日より七月七日まで	二二、一六〇、八九五人
第三回安全週間	〇〇二	〇二四	〇七四	〇三七	一三六	稼働延員數	八四八、四二二人
第四回安全週間	〇〇三	〇二四	〇七四	〇三七	一三六	稼働延員數	

備考 一、本表は全國安全週間に參加せる鑛山に於ける統計にして不参加鑛山に於ける災害を含まず
二、第一回安全週間中災害率は第二回安全週間報告書記載に依る

二、第四回全國安全週間の要綱

第四回全國安全週間の舉行に際しては各鑛山監督局及地方常務委員會の盡力斡旋により、別記の

第四回全國安全週間の要項

要綱を、全國各鑛山に配布し、或は各地に講演會を開催して趣旨の徹底に努め、其の參加を勸誘した。殊に仙臺地方に於ては安全運動、安全教育の一齊計畫を仙臺監督局管内各鑛山に對し市丸調査委員のラヂオ講演を放送した、又實施に際しては、安全ポスター、作業心得、衛生心得等を配布して成績の向上を計つた。

第四回全國安全週間舉行要綱

- 一、期 日 昭和六年七月一日ヨリ七日迄一週間
各地方又ハ各工場鑛山ニ於テ日次計畫ヲ定メ右期間ヲ準備デ、整頓デ、服裝デ、衛生デ、防火デ、等トナスモ可ナルコト
- 二、主催及後援ハ全國的ニハ財團法人産業福利協會及社團法人日本鑛山協會主催、内務省社會局及商工省鑛山局後援トスルモ各地方ニ於テハ廳府縣及工業主團體ヲ加フルコト
從ツテ揭示用ポスターニハ内務省社會局及産業福利協會ハ共通トシ地方毎ニ廳府縣名又ハ警察部、工場課保安課名ニテモ可及工場主團體名ヲ入ルベキニ依リ希望ヲ申出ラレ度キコト
- 三、趣意書、安全週間實施方法竝從業者ニ對スル安全及衛生ニ關スル注意事項(揭示用)ハ主催者ヨリ五
月末日迄ニ無償配布スベキニ依リ(參加各事業場一枚ヅツ、但注意事項ハ大工場鑛山ニ於テハ數枚
ナルモ差支ナシ)五月十五日迄ニ所要部數ヲ産業福利協會又ハ日本鑛山協會ニ申出デラレ度キコ
ト
- 四、左記印刷物及マークハ産業福利協會ニ於テ取纏メ作成スベキニ依リ所要數ヲ鑛山ニ就テハ日本

鑛山協會地方常務員會ニ於テ取纏メ日本鑛山協會、工場ニ就テハ官廳又ハ事業主團體ニ於テ取纏メ産業福利協會宛、五月十五日迄ニ申出ラレ度キコト工場鑛山聯合團體ニ就テハ便宜何レカニ申出ラレ度キコト

1 注意 票、危險、注意、清潔、整頓、火氣嚴禁、先ヅ健康、安全第一ノ七種

縱九寸	石版刷	五百枚	參拾九錢
橫四寸	三色刷	百枚	壹圓參拾七錢

2 揭示用ポスター	甲 鐵製セルロイド張	拾個	拾錢
	乙 紙製	拾個	參錢

3 佩用安全マーク	拾個	參錢
-----------	----	----

注意 (イ) 右價格ハ官廳又ハ團體迄ノ送料ヲ包含ス、直接工場又ハ鑛山へ送付スル場合ニハ送料ハ當該工場又ハ鑛山ニ於テ負擔ノコト

(ロ) 右印刷物及マークハ取纏メ注文スベキモ發送及代金取立ハ製作者ニ於テ直接之ヲ爲スコト

(ハ) 本計畫ニ參加スル以上上記ノ品物ハ可成主催者ヲ通ジテ注文スル様致度他ノ商人ニ注文ノ節ハ其旨豫メ申出ヅルコト

五、安全週間參加事業場中其ノ成績特ニ優秀ナルモノハ産業福利協會又ハ日本鑛山協會ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ表彰スルノ計畫アリ、其ノ標準及報告事項ハ別ニ定ムルコト

六、維持會員及贊助會員ニ貸與スベキ安全運動宣傳ノタメノ活動寫眞ハ持合數少キモ借受申込ニ對

シテ可成希望ニ添フ様努力スルコト

申込期日ハ五月末日迄トス

昭和六年四月

主	後
催	援
財団法人 産業福利協會	内務省 社會局
社団法人 日本鑛山協會	商工省 鑛山局

第四回全國安全週間趣意書

年々引續き催して來ました安全週間は回を重ねるに連れて益々事業主及労働者の理解と熱心とを増し著大なる効果を擧げて參りました。昨年の事例に就て見ましても安全週間中の工場災害率は全國的に一割四分を減じ此の機會に設備施設の改善せられたるもの約九萬件に及んで居ります。熱心に行つた所では災害率を二分の一以下或は四分の一に下げた所もあります。然し乍ら他面産業の進歩は益々機械及動力の利用を加へ速度を増し規模は大きくなり、労働は集約的となり、之に連れて産業災害遞増の傾向を免れず工場鑛山に於ける災害の爲に年々死者は千三百人を越へ傷者を三日以上休業のものは十八萬人(昭和四年)を下りません。不斷に安全運動に努め産業に伴ふ犠牲者を最少限度に留むるに努むることは産業に關係して居る人の最も重要な義務であります。依つて本年も七月一日より一週間を期して第四回の全國安全週間を舉行し官民勞資力を協せ心を一に

して我が工業界から負傷疾病火災と言ふ不祥事を驅逐するに努め度いと思ひます。安全運動は一年三百六十五日不斷の努力に據らなければならぬ事は申す迄もありませんが我々の心は兎角緩み勝てあります。安全週間は愈り易い我々の魂への力強い呼び掛です。此の機會に心を引き締め設備を整へ工業の振興と労働者の福利との爲めに平和な工業戦線に邁進しやうではありませんか。

昭和六年五月

主催者	後
財団法人 産業福利協會	援
社団法人 日本鑛山協會	商工省 鑛山局
内務省 社會局	

各事業場に於ける安全週間實施方法

一 實施準備及従業員の注意力の喚起

- (イ) 安全委員會又は安全係衛生係等の設けなき工場鑛山其他の事業に於ては成るべく之を設け、此等をして安全週間の計畫並に之が實行督勵の任務に當らしむること。尙安全委員會又は安全係は爾後繼續して日常の安全保持に努むることとする。
- (ロ) 地方廳又は事業主團體に於て定め又は參考案として示したる日次計畫並に施行細目に基き夫々其の事業場の事情に應じ各日の實施事項を定めて行事の實施を確實ならしむること。
- (ハ) 安全週間の趣旨及心得を一般従業員に周知せしめ之に對する注意を喚起する爲めに講話會

の開催、ポスター、標語等の募集、安全週間趣意書、心得書等を掲示すること。

(三) 一般従業員並に幹部委員係員等は安全マーク又は腕章等を佩用し各人の注意を喚起すること。

(ホ) 作業場、食堂、寄宿舎等の出入口其の他適當なる箇所には安全週間實施に關するプログラム、ポスター、標語等を掲示し其の他適當なる宣傳方法により従業員全部の注意を喚起すること。

(ヘ) 安全週間中に於ける負傷又は疾病は成るべく毎日作業場内の掲示場其の他適當なる處に掲示すること。

二、災害豫防に關する施設及團體的訓練の實施

(イ) 安全委員又は安全係は作業場其の他の安全検査を實行し機械及設備の危険なる部分を修繕し又は適當なる豫防装置を設け危険なる作業方法等を發見したる時には安全指導に努力すること。

(ロ) 金屬、礦物の破片等の飛來又は有害光線によりて眼に危害を生ずる虞ある作業に従事するものは成るべく保護眼鏡を使用せしめ有害なる粉塵、瓦斯、蒸氣の發散する場所に就業する者は適當なるマスクを使用せしむる等保護具使用の風を馴致すること。

(ハ) 其の他工場災害豫防及衛生規則所定事項は猶豫期間中のものと雖も成るべく之を實行すること。

(ニ) 安全委員又は安全係は各作業部係と協力して場内、坑内の整理整頓を期し特に藥品、危険物の

貯藏取扱に注意し火災其の他の事故なき様に努むること。

(ホ) 其の他安全なる作業方法の訓練、火災及非常時に於ける避難演習、消防演習等團體的訓練を實施すること。

三、保健衛生施設

(イ) 醫療施設其の他保健衛生上必要なる各種設備の新設、改善に努むること。

(ロ) 安全委員又は安全係、衛生係は炊事場、食堂、便所、洗面所、寄宿舎、合宿所、作業場等の掃除其の他清潔方法の實行を督勵すること。

(ハ) 休憩時間には成るべく従業員を作業場外に出でしめ適當なる健康維持法をなす様に奨勵すること。

(三) 負傷疾病に罹りたる場合には醫療を遅延せしむる事なき様に努むること。

安全心得

お早う！ 今日も一日氣をつけませう

先づ身仕度を完全に

人は人道、車は車道

見たか連結今一度

愛せよ切端、支へよ天井

機械は手入れ、仕事は細心

最初の注意最後まで

衛生心得

健康第一、日光は衛生の基

酒と寝不足身の破滅

掃除清潔、蠅を取るより蠅を造るな

食ふな生物、冷すなお腹

一人の傳染病は萬人の迷惑

三、安全週間実施状況

安全週間実施鑛山数及鑛夫数 第四回全國安全週間舉行に際し各地方常務委員會より参加方を勧誘せる鑛山は四百七十五鑛山(鑛夫十九萬五千二百二十八人)なるに對し、安全週間を實施せるは二百十三鑛山(鑛夫十六萬三千二百七十六人)にして、参加割合は鑛山數に於て約四割五分に過ぎざるも鑛夫數に於て約八割四分に達した、其の地方別並鑛種別實施状況は左の通りである。

第四回全國安全週間實施鑛山及鑛夫數

鑛種別	實施方勧誘		實		勧誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金	一〇一	三九、三七二	六一	三四、四二九	六〇・四%	八七・四%

鑛種別	實施方勧誘		實		勧誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
石炭山	一五八	一八三、七二四	一〇八	一五一、六二九	六八・四%	八二・六%
石油山	一八	三、二二五	一三	二、二七二	七二・二%	七〇・四%
其他非金屬山	二〇	二、三四六	七	一、四五九	三五・〇%	六二・二%
計	一九七	二三八、六六七	一二八	一八九、七八九	六三・六%	八三・〇%

一、札幌地方

鑛種別	實施方勧誘		實		勧誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金	一〇	一、一〇九	五	七四〇	五〇・〇%	六六・七%
石炭山	三四	二二、四二二	二七	一七、一三三	七九・四%	七三・一%
石油山	六	二四五	六	二四五	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%
其他非金屬山	六	六〇五	一	二六六	一六・七%	四四・〇%
計	五六	二五、三八一	三九	一八、三八四	六九・六%	七二・四%

二、仙臺地方

鑛種別	實施方勧誘		實		勧誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金	二四	一一、二一六	一五	一〇、三一〇	六二・五%	九一・九%
石炭山	一二	九、一四五	八	六、七六三	六六・七%	七四・〇%
石油山	七	一、一九二	六	七四一	八五・七%	六二・二%

安全週間實施狀況

其他非金屬山計	五	一、一二二	三	九四五	六〇〇	八四・二
	四八	二二、六七五	三二	一八、七五九	六六・七	八二・七

三、東京地方

鑛種別	實施方勸誘		實施		勸誘に對する實施割合	
	鑛山數	觸夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金屬山	一六	八、八八五	九	七、九三二	五六・二%	八九・五%
石炭山	七	一、七七三	四	一、〇九三	五七・一%	六一・六%
石油山	一一	一、九五四	一〇	一、六七四	九〇・九%	八五・六%
其他非金屬山計	四一	九六九	三	一九四	二七・二%	二〇・〇%
	四五	一三、五五三	二六	一〇、八九三	五七・八%	八〇・四%

備考 實施せざる鑛山の鑛夫數は昭和六年六月末の員數なり。

四、大阪地方

鑛種別	實施方勸誘		實施		勸誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金屬山	四〇	一〇、三二三	二五	八、二三三	六二・五%	七九・八%
石炭山	二	九七	一			
石油山	一					
其他非金屬山計	四二	一〇、四三七	二五	八、二三三	五六・八%	七八・九%

五、福岡地方

鑛種別	實施方勸誘		實施		勸誘に對する實施割合	
	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數	鑛山數	鑛夫數
金屬山	五七	三、七七七	八	二、五三〇	一四・〇%	六七・〇%
石炭山	二二八	一一九、一五八	八三	一〇五、四七七	三八・一%	八八・五%
石油山	一					
其他非金屬山計	二八五	一二三、二一九	九一	一〇八、〇〇七	三一・九%	八七・七%

備考 鑛夫數は六月末日現在なり。

安全週間實施方法概要

實施の方法は各鑛山共に各其の特殊の事情を參酌して舉行する爲め甚だ多岐に亘るが、之を大別すれば専ら主旨目的の達成を宣傳に意を注ぎたりと認めらるゝもの百十九鑛山(參加鑛山の約五割六分)専ら保安施設の改善に努力せりと認めらるゝもの五鑛山(約二分四厘)設備の改善と主旨の宣傳と併施して目的の貫徹を計りたるもの八十九鑛山(約四割一分六厘)である。

鑛種別実施方法概況

實施概況	鑛山數		合 計
	金屬山	石炭山	
宣傳を主とするもの 保安施設の改善を主とするもの 宣傳及施設改善を併用せるもの	四二	五九	一〇一
	一九	四	二三
合 計	六一	六三	一二四

安全委員保健委員等の設置 安全週間の実施に際して多くは安全委員會安全係、災害防止班等を設けて現場の安全検査並に週間中實施事項の指導監督を爲せるも此等特定の委員を設けざる鑛山に在りても現場係員を以て安全週間實施の主旨貫徹に努力したものと認められる。保健委員を設けたる鑛山は未だ多數ではないが參加鑛山の約四分の一に之を設けられ又一、二の鑛山には勞務者のみの自治的災害防止團體を有し鑛山側安全委員と協力して災害の防止に努力して居る。

安全週間委員設置状況

種 別	安全委員(係)		備 考
	常設	臨時	
金屬山	二六	二三	
石炭山	三七	三七	
石油山	六一		
其金屬山他		六	
計	六四	七二	

一、札幌地方

種 別	保安懇談會		災害防止班		勞務者自治災害防止團體		改善委員		保健委員(班)		防火委員(班)	
	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時	常設	臨時
金屬山	一	〇	一	四	二	一	一	〇	二	一	一	一
石炭山			五									
其他非金屬山												
計	一〇	一	一四	七	二	一	二	一	二	二	一	二

主として施設計畫、作業の安全指導をなすもの
主として保健衛生上の指導をなすもの
主として防火、消火、盜難防止等をなすもの

種 別	常設現場懇談會		常設勞務者自治災害防止團體		常設保安幹部會		常設保安委員會		臨時保安委員會		保安懇談會	
	金屬山											
石炭山												
其他非金屬山												
計	一〇	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	

備考 安全委員、保健委員災害防止班等の設置概況

安全週間実施状況

- 1 現場及労働者側より委員を選出し常時は例會を催して災害防止能率増進に關する協議研究を遂げつゝあるが週間中は特に其の機能を發揮して一日數回に亘りて稼行現場を巡回し保安の宣傳に又作業の指導に努力し且危険と認むる箇所には自ら應急處置を施す等鋭意災害の防止に盡力す。
- 2 労働者自治災害防止團體 週間中各般に亘る安全運動に協力し稼行現場の巡回には或は印刷物の配布に或は掲示板の設置に獨特の宣傳法を用ひて内部的に同僚の注意心を喚起しその成績頗る見るべきものあり。
- 3 保安幹部會同支部會 幹部會は會長一名、委員十二名より成り安全運動を總掌し支部會は會長一名、委員十五名乃至二十名にして五箇所に設く安全運動の企畫實行をなす。
- 4 安全委員 職員外の健康保險組合職員、技術優秀なる労働者を選任して委員に依嘱し週間前に於ては各般の調査事項、調査の手續、宣傳方法に協議研究を遂げ週間中は各自の分擔區域に従ひ一日數回作業場を巡回して直接安全戰の陣頭に立ち専ら安全習慣の馴致に努めたり。
- 5 保安懇談會 係員及鍛夫を以て組織し保安事項の施設研究並に發生事故の探究災害防止等に努む。

二、仙臺地方

種別	鐵山數	金屬山	石炭山	石油山	計
安全委員(常置)					
同委員(臨時)					
保健委員(同)					
災害防止班(同)					
計		二四	五七	一四	二四五

三、東京地方

種別	鐵山數	金屬山	石炭山	石油山	計
常設安全委員					
臨時安全委員					
常設保健委員					
臨時保健委員					
臨時災害防止班					
常設改善委員					
計		二〇	一一	四	二四

備考 常設改善委員とは安全、改善、保健を兼ねるものにして、各鐵山の實施事項概要左の如し。

- 1 足尾鐵山 安全委員會の組織を左の如く定む。
 - 中央委員會 六〇名 本山方面委員會 一二〇名 小淵方面委員會 一〇二名
 - 通洞方面委員會 一五九名 選礦方面委員會 三一名 淨水方面委員會 二二名
 - 製鍊方面委員會 九四名 工作方面委員會 七〇名 經理方面委員會 三〇名
 - 其他方面委員會 一二名 計 七〇〇名
- 中央委員會に於て各方面の安全週間實施計畫及大綱を決定す。
 方面委員會は之に基き細目の決定及實施に當り委員中鐵職夫組合出身者は危害豫防、精神團體出

安全週間實施狀況

身者は衛生整頓を、係員出身者は其の兩方面を分擔す。
各委員は分擔に就き先づ現場の安全検査をなし施設の改善すべきもの、新設すべきもの、整頓すべきものは之を施行し巡廻中不安全又は不衛生の行爲を發見せし時は之に注意を與へ凡て各自の等に付探りたる處置を安全報告により委員長に提出せしむ。
其の報告書の提出せられたるものは左の如し。

本山 三四件 小 五四件 通 洞 四二件
浄水 一件 計 一四一件

尙委員は其の業務執行に際しては本業を廢し専ら安全運動に従事せしめたるを以て請負作業に従事せる委員に對しては請負賃金に相當する賃金を支給す。

2 日立及諏訪鑛山 各現場係員全部を常設安全委員とし各係代表委員十四名を以て代表委員會を組織し其の決議により毎月一回宛安全デーを施行し現場を巡視して施設をなすと共に毎月の公傷統計を擔當係別に現場へ揭示し注意を喚起す。

3 佐渡鑛山 常設改善委員(安全、改善、保健を兼ねるもの)の設けありて安全週間中之等を安全委員として安全第一の腕章を附し各實施事項の指導監督をなさしむ。

4 河津鑛山 職員中より常設安全委員を任命し諸般の災害防止に關する實際的の調査研究を行はしむ。

5 高萩炭礦 常設安全委員會の設けありて安全週間中は該委員の外副委員を配屬し作業の種類に依り受持區域を定め色別の腕章を附し實施事項に對し周到なる注意を以て指導監督せしむ。

6 日本石油株式会社所屬新潟縣下鑛山 職員、職長各區域擔當者をして安全、保健委員會及災害防止班を組織せしめ色別腕章を附し作業機械器具其他各設備の點檢を行ひ従業員に注意を與へると共に災害豫防に勤め衛生設備の完備、下水、汚物等の消毒等は特に注意せしむ。

四、大阪地方

種別	鑛山數	金屬山	計	委員の實施事項概要
安全委員(常設)	一〇	二	一二	週間舉行に關する要綱を決定し各委員の分擔範圍を定め週間舉行に關する宣傳の發行併せてポスター、標語の懸賞募集を發表す 展覧會開催し各委員より作業上の危害豫防能率増進等に就き意見の發表をなし諸種の改良等に努む 講演訓練各種ポスター、標語の配布及揭示、班の編成、災害火災豫防、衛生及保健に關する指導 死傷者及病者に對し其の一般従業員の指導並に災害防止施設に従事す 國民體操、消防訓練、器具及器具手入、安全運動の主旨徹底を期する目的を以て休業、負傷反則事故等の有無によりその成績を調査し毎日前日の成績を發表す
災害防止班(常設)	三	四	七	災害防止、能率増進、出稼獎勵、設備事故防止、經費節減、清潔整頓、保健衛生及反則者發生防止に努む 終業後事業場並に住宅の夜警に當る
保健班(常設)	一	二	三	非常時の災害防止のため警防隊を組織し班長一名、副班長一名、小頭二名、消防器係、警備、傳令等若干名宛宛委任せり 防火施設の検査をなすと共に之が警備の任に當らしむ
防火班(常設)	一	一	二	週間委員となりて各係の中心をなし日々係所屬の週間委員を集めて實施に關する意見を徴し實施事項を委員長宛宛報告す
係安全委員(常設)	一	一	二	小頭及鐵夫中より選任し安全委員及安全係よりなる安全會議を催し事業の事項の打合せをなす
安全係(常設)	一	一	二	係安全委員當番委員を以て之に充て本部委員及係常任委員の指示の下に諸計畫を實施し委員會に於て意見を開陳し日々實施事項を報告せり
週間委員(臨時)	一	一	二	全期間中に發生したる變災、負傷、疾病に關しその原因及狀況を調査す安全「マーク」配布、安全衛生心得揭示、消防練習指導
調査委員(臨時)	一	一	二	

五、福岡地方

種別	鑛山數	金屬山	石炭山	計
安全委員設置	常設	三	二	三
安全委員設置	臨時	二	二	二
保健委員設置	常設	一	一	二
保健委員設置	臨時	一	一	二
災害防止班(又は委員)の設置	常設	一	一	二
災害防止班(又は委員)の設置	臨時	一	一	二
		一〇	二	一二
		二四	二	二六

附記

一、安全委員 各委員は其の擔任の區域を定め其の區域内に於ける事故及負傷者の有無を調査し若し當該事故ありたるときは原因、程度、處置等詳細に坑務主任に報告せしむることとし事故なき場合も毎昇坑の際其の旨報告せしむる事とせり。尙週間中は保安設備方法等に關し特に注意せしめ且意見を具申せしめたり。

二、保健委員 保健委員は尿尿の放漫亂雜なる用便等を戒め之れが撤出掃除に努め清潔保全に努力し又早寝早起の實行並に入坑時の身體検査を行ひ尙隨時健康診斷を爲す等専ら坑内外の衛生、或は從業者の健康増進に邁進せり。

宣傳方法 一般的に採用された宣傳方法はポスター、標語等の掲示にして殆んど全部の鑛山にて實施せられ、又講演會、座談會等の開催、刊行印刷物等文書の配布、安全旗の掲揚、安全行燈、安全門の設置等は大多數の鑛山に行はれて居る。其の他の宣傳方法としては活動寫真會又は安全芝居を催した

るもの三十三鑛山、宣傳行列を行ひたるもの二十鑛山、紀念品の配布者は販賣を爲したるもの七十四鑛山、安全徽章を佩用せしめたるもの四十鑛山であるが、從來廣く用ひられて居た安全競争、安全成績表彰又は各種の懸賞募集は僅に二、三鑛山にて爲されたのみである。尙近年増加したと認めらるゝ方法として安全祈禱又は臨時祭祠を爲せるもの十六鑛山あり、災害防止を家庭的方面より徹底せしむる爲め主婦會、處女會を開催し又は入昇坑者に對する家族の送迎を爲したるもの十二鑛山あるは注目に價する。以上の外特殊なる方法としては飛行機による宣傳、大風船の飛揚、高聲電話の利用等がある。

安全週間宣傳方法概要

宣傳方法	鑛種別件數	金屬山	石炭山	石油山	其他非金屬山	計
ポスター	其他の掲示	六二	一一三	一九	二六	二〇〇
講演會、座談會等		三四	一二五	六	二	一六七
電燈裝飾、安全門、安全旗等		二二	九八	三	一	一二三
文書宣傳 <small>(各種印刷物、刊行物等の配布)</small>		五二	六一	八	三	一一四
紀念品の配布又は販賣		八	六六	三	一	七四
安全徽章の佩用		九	二八	三	一	四〇
活動寫真會、安全芝居		八	一八	六	一	三三
宣傳行列、宣傳音樂會等		五	二	一	一	二八
安全祈禱、臨時祭祠等		四	二	一	一	一六

一、札幌地方

種別	鑛山數	石炭山	石油山	計	實施事項の概要
坑内外整頓	一〇			一〇	各持場の整頓を行ひ古坑木の整理、古板、古釘の取片付、梯子の修繕、斜坑ゴロの修理、坑道下水の掃除、通行
鑛車事故防止	一一			一一	特に鑛車に注意を拂ひ操縦に際してはカーブ、側壁、天井に留意せしむると同時に車臺、チェーン、ピン、鉸車逸走止、コース元クリップ等局部に付き精密なる検査を施行す
落盤防止	一二			一二	作業前係員をして隈なく切羽を巡回せしめ天簀、浮石、利キドベラ等の状態を精密に検査し崩落を戒め留付を奨励す
機械電氣事故防止	一〇			一〇	各坑の保安係員及現場擔當係員相互協力して各所通氣設備の完全
瓦斯炭塵征服	九			九	に力め切端瓦斯の停滯を防止すると共に炭塵の掃除を奨励し岩粉棚及岩粉撒布の状況を検査す
刺創打撲防止	九			九	特に足元、天井周囲に對する用心を強調して古釘、古スパイク等の附着せる木片、板切れ、枕木の拾集整頓をなさしむ
衛生及健康増進	二二			二二	一齊に社宅便所、大小下水の清掃、塵芥の片付、焼却、寢具衣類の日光消毒を施し、蠅の驅除、不淨箇所を石油乳劑撒布し當日は從業員に體操、鼓技、遊戯を奨励して健康の増進を宣傳し殊に禁酒を勵行せしめ當日は販賣所に於て酒類の販賣を中止す
火災豫防	一八			一八	煙突、消火器、消火栓の検査を實施し火元用心を宣傳して住宅、事業場内に於ける火氣取扱を嚴にす
準備	一三			一三	各現場の施設に遺漏なきを期す
一般保安	一四			一四	坑内外一般保安に關して留意す
運搬安全	一			一	坑内外運搬系統に付災害防止に留意す
工具安全	二			二	作業用品より來る災害防止に留意す
電防止	一			一	感電に依る災害防止に留意す
安全祈願	一			一	「神香と共にあり」を標語として祈願す

種別	鑛山數	石炭山	石油山	計	實施事項の概要
服裝整頓	一四			一四	「物は定所にみなりは正しく」を標語とし服裝に留意す
無駄無理なし	一			一	「無駄なく無理なく物は生かして」を標語として無駄無理を避く
災害防止	一			一	「心静なれば身に災なし」を標語とし災害を防止す
能率増進	一			一	「悔なきつとめ」を標語として能率の増進を計る
週間反省	一			一	週間を反省せしむ
頭部の保護	一			一	特に頭部の災害を防止す
腕部の保護	一			一	特に手腕の災害を防止す
足の保護	一			一	特に足部の災害を防止す
材料整頓	三			三	坑内外材料を整頓す
検査	一			一	安全燈、機械器具、炭車、軌道、瓦斯、工場、切端及火の元検査
整理	二			二	其他臨時坑内捜検をなす
禁酒	一			一	用品坑木、切端等の整理、作業場の片付、家内及道具類の整理をなす
安眠	一			一	禁酒を奨励し販賣所にて酒類販賣中止をなす
事故なし	三			三	音楽、放歌、高聲を遠慮す
安全	二			二	機械器具の手入れ救急箱藥品の整理、補充をなす
労働節約	一			一	入坑者の身體捜検を將に嚴重にして災害に關する注意を與へ現場係は本舉の趣旨徹底に努め無事故を期す
危険防止	二			二	内容は安全デー同様にして能率の増進を計る
清潔	二			二	一般節約と同時に酒なしを實施す
清掃	二			二	一般に危害防止に努む
大掃除	一			一	事業場及社宅等の不淨個所の清掃をなす
					委員立會にて各坑井橋の點檢をなし附屬梯子床板等の一部修理す
					坑内外整理デー、清潔デー等と内容を同うす

古	鐵	整	頓	デ	一
怪	我	な	し	デ	一
漏	氣、	漏	油、	漏	電
公	德	庭	圓	滿	デ
家	庭	上	圓	滿	デ
向	上	圓	滿	デ	一
に	こ	こ	こ	こ	一
信	仰	デ	仰	デ	一

備考 各種デ-に於ける実施事項概要を列記すれば左の如し。

1 足尾鐵山

(イ) 選 鑛

- 釘拾ひデ- 工場内外の釘拾ひを行ひ約二十六疋拾得せり。
 - 古鐵整理デ- 整理を行ひたる古鐵類約二五五疋なり。
 - 照明デ- 電球の掃除、取替を行ふ。
 - 戸外運動デ- 各種戸外競技を行ふ。
 - 清潔デ- 硝子窓、便所、道路の大掃除を行ふ。
 - 服装デ- 通勤服、作業衣の検査を行ひ不用物を處理せしむ。
- (ロ) 小 瀧 坑
- 整頓デ- 道路の清掃、土盛、除草及塵箱の蓋付等を行ふ。
 - 規律デ- 各社宅時計の時刻調査を行ひ不正確なるものは之を改めしむ。
 - 清潔デ- 共同便所の石油乳劑撒布、塵捨場の消毒劑撒布及塵芥の焼却をなし便所、下水、水場の

大掃除をなす。

- 火・防デ- 電檢査、安全マツチの配布、唧筒及消火栓の放水試験を行ひ更に部落別に主婦を集め簡易消火器の消火演習を行はしむ。
- 戸外運動デ- 野球、庭球、剣道大会を行ふ。
- 無駄排除デ- 不用品の交換會を開催す。
- 公德デ- 青年團總出動にて道路掃除を行ふ。

(ニ) 通 洞

消毒デ- 便所及糞尿溜場に「ミケゾール」消毒を行ひ、被服寢具の日光消毒及作業衣の洗濯を行はしむ。

2 日立及諏訪鐵山

準備デ- 擔當係員各現場を詳細に調査すると共に安全委員より各擔當従業員全般に注意を與ゆ。

整頓デ- 全般に亘り總ての整頓を行はしめ安全委員は係員の検査を求め不充分の箇所は更に整頓せしむ。

服装デ- 従業員の服装に対する注意を喚起する爲宣傳「ピラ」を各所に貼付す。

清潔デ- 各家庭より工場迄全山に亘り掃除を行はしむ。

機械器具點檢デ- 作業前各受持の機械器具の點檢を行はしむ。

火防デ- 油の漏洩、古紙類の整理、火の始末を行はしめ更に漏電の有無を全般に亘り調査せしむ。

3 神岡鐵山
安全週間実施状況

安全週間実施状況

安全週間実施状況
宣傳デ― 就業前全員安全を默禱し「ポスター」心得書等の貼付を行ひ安全週間に關する講演をなす。

検査デ― 救急箱、住宅、機械類、器具、工具並に軌道の検査をなす。
整頓デ― 道路、作業場、器具、材料置場並に住宅、物置等の整頓をなす。

信仰デ― 神社に参拜し敬神の念を喚起せしむ。
健康増進デ― 蠅取り、戸外運動を行ひ暴飲暴食の嚴禁醫師の健康増進に關する講演を行ふ。

火防デ― 模擬非常召集をなし消火演習を行ふ。次で防火用「ブツク、バケツ」の購入、電、非常用水及消火栓の検査を行ふ。

清潔デ― 工場、住宅の大掃除、衣類寢具の日光消毒、食器類の熱氣消毒を行ひ「ミケゾール」消毒薬を散布せしむ。

4 佐渡嶺山

家庭圓滿デ― 災害防止は家庭よりの趣旨を宣傳す。

向上デ― 神佛の前にて向上を誓ふ様獎勵す。

時間勵行デ― 時は金なりの意を説明し併せて規律嚴守の必要を説く。

無駄排除テ― 無駄發見申告を獎勵す。

怪我なしデ― 昨年中の統計を示し其の原因が主として過失、不注意に依る事を説明し各自の注意を喚起す。

ニコニコデ― 笑を宣傳す。

清潔、整頓、防火デ― 各工場の清潔、整頓をなし火の元、消防用具の検査並に唧筒の放水試験を爲す。

5 河津嶺山

準備デ― 各種「デ―」の準備方法を考究す。

清潔、整頓デ― 古杭木、古鐵等を一定の置場に撤出整頓せしむ。

時間勵行デ― 出勤、休憩等の終始時間を嚴守せしむ。

無駄排除デ― 全般に對し無駄の有無を考究すると共に之に對する投書を爲さしむ。

節約デ― 極力動力、材料消耗品の節約を行ふ。

機械器具愛護デ― 機械器具及建築物の不良個所の手入整備をなす。

6 日本石油株式会社所屬新潟縣下嶺山

準備デ― 全員に一般的注意を與へ作業場、荷置場の大掃除整理を行はしむ。

火防デ― 消防具の點檢を行ひ次で消防演習をなす。其の他火氣使用個所の検査を行ふ。

清潔デ― 寄宿舍、食堂、便所の掃除並に消毒をなす。

機械器具點檢デ― 機械器具の修理、災害豫防装置を設け、施設物の點檢を行ふ。

漏氣、漏油、漏水、漏電注意デ― 各部の蒸氣、油、給水、電氣、瓦斯の漏洩防止を行ふ。

四、大 阪 地 方

種 別	嶺 山 數	金 屬 山	實 施 事 項 の 概 要
危 害 豫 防	一		<p>國民體操後危險豫防に關する主たる注意を與へ各係員を手配し諸種の検査並に手入をなす</p> <p>負傷者の原因別、時刻別、部位別等の調表を配付説明せしむ</p> <p>投書筒を設け危険豫防に關する意見を求む</p> <p>検査及終業出坑の際坑内古ロープ、金具、木片等の不用品を持出す</p> <p>ポスター貼付及訓話をなす</p>
無 駄 排 除	一		<p>二</p> <p>消火器、消火設備の點檢補修</p> <p>煙突、機械の磨擦、漏電等の検査</p> <p>引火性危険物貯藏所の保安検査</p> <p>消防演習の實施</p> <p>消火栓放水試験</p>



五、福岡地方

種別	鍍山數	金屬山	石炭山	計	實施事項の概要
準備	1	1	9	11	九 各方線込前に各坑安全幹事より夫々安全週間に關する訓示を與へ且又坑内外の諸設備検査並に改善を行ひ安全週間の實績舉行に努力す
検査	1	1	1	3	一二 諸設備に對し一齊に詳細點檢を爲す
禁酒禁煙	1	2	1	4	三 災害發生の根源たる酒及煙草の絕對禁止を爲す
清潔整頓	1	2	4	7	四二 坑内切羽坑道の整頓は勿論各事務所、社宅、便所、下水等總てに互り整理を爲す
安全服裝	1	1	2	4	二九 正裝は精神緊張の基なるに付入坑者に對し坑口に於て嚴密なる服裝の検査を行ふ
衛生	1	1	2	4	二二 全戸を開放し寢具、食器等の日光消毒、下水溝、便所の掃除、消毒、生水、生物の飲食注意並に早寝早起の實行を爲さしむ
防水防火	1	1	2	4	二〇 地表水、坑内水に對する特別の防禁方法の考慮並に注意及消防隊の演習、消火器の検査、火氣嚴禁個所に於ける禁煙の勵行を爲す
能率	1	1	1	3	二〇 健康者は必ず全部出稼せしめ而して全員一致協力以て入坑、出坑を進行せしむ
災害防止	1	1	1	3	一三 油斷の前は千丈の崖、從業員一同に對し特に注意の喚起を促すと共に坑内、坑外、諸器具機械の修理點檢並に改造を爲し或は設備の完全を期し以て災害の發生を未然に防止せしむ
安全	1	1	1	3	一三 安全委員及助手をして一般從業者に就業前安全週間の趣旨を傳へ或は安全なる作業の方法を教示し之が勵行を期し以て死傷者の絶無を計る
落磐防止	1	1	1	3	一三 天井の検査、坑道及切羽の浮硬落し、天井の維持、完全なる支柱の勵行を爲し落磐防止を期す
體育	1	1	1	3	一四 主として公休日野球、庭球或は角力等を行ひ大いに「スポーツ」熱を宣揚し又從業員の健康診斷を行へり
安全祈禱	1	1	1	3	一〇 神は吾れと共にあり、早起して祖先の祭壇に禮拜し又は從業員佛教會の安全祈禱をなす、一般者は臨時山神社參拜を行ふ

種別	鍍山數	金屬山	石炭山	計	實施事項の概要
炭車災害防止	1	1	1	3	一〇 炭車、ロープの検査改善、連結器、クリップ、車輪の検査、改善或は尙止の勵行、規定捲揚數の嚴守等を爲し炭車に關する災害の發生を未然に防止せり
事故なし	1	1	1	3	一三 休日の際日特に坑内、坑外事業場機械器具の點檢爆藥の取扱等に充分獎勵を爲す
健康	1	1	1	3	一〇 大運動會開催並に全從業員の健康祝福會を爲す
にこ	1	1	1	3	一二 安全運動を通じ無病息災の幸福感にひたらしめ各種の催しを爲す
考案	1	1	1	3	六 各從業員をして各種機械器具並に探掘方法等に付懸賞附にて考案せしむ其の成績良好なりき
設備完全	1	1	1	3	六 安全委員各所巡視して設備不完全を指摘して以て之を完全ならしむ
節約	1	1	1	3	三 諸材料及電力、電燈、蒸氣、消費炭、給水等の節約に努む
時間勵行	1	1	1	3	三 勤務時間、操込時間、交代時間等の嚴守を爲し以て規律を正し能率増進を計る
注意	1	1	1	3	一 特に從業員に對し諸般に付注意をなさしめ以て自己不注意より起る災害の防止に務む
反省	1	1	1	3	二 週間中不安安全なる行爲を爲したるものに付反省を促がし安全方法を報告せしむ
宣傳	1	1	1	3	一 ポスター、注意票或は紀念品の配布に依り災害防止に付徹底的に宣傳す
規律	1	1	1	3	四 服裝並に時間或は上職の命等に付規律を重んぜしめ以て坑内外の秩序を一新す
鍍夫住宅援助	1	1	1	3	二 鍍夫住宅の修理、改善、不潔個所の清掃等住宅の援助を可及的に行ふ
協力	1	1	1	3	二 保安、安全に就て協力一致の習慣を養成する目的を以て稼働者一一致協力して坑道其他各所の修理に奉仕す
精勤	1	1	1	3	四 早起早寝を爲さしめ一日優秀なる勤務を爲さしむ

施設事項概要 安全週間に際し各鍍山に於て實施せる各般の施設を大別すれば左の通りである。

施設事項	鑛種別鑛山數					計
	金屬山	石炭山	石油山	其の 非金屬山 其他	合 計	
危害豫防施設の検査	三六	五二	一五	三	一〇六	
同 修理、改造、新設	三〇	五五	六	三	九一	
同 保健衛生施設の検査	三四	四五	一三	三	九五	
同 修理、改造、新設	三二	五二	七	三	九一	
火災豫防施設の検査	三三	四七	一四	三	九五	
同 修理、改造、新設	二四	三六	五	一	六五	
従業員の指導及訓練	一九	三〇	四	一	五三	
其他の施設	一八	七六	一	一	九四	

四、安全週間の成績

安全週間の成績は各鑛山毎に之を比較し、其の優劣を定むるは必ずしも全國安全週間舉行の目的に非ざるのみならず、各鑛山の規模の大小、作業過程の難易等により災害發生狀況に著しき差異あり比較困難なるを以て、本編には地方別に災害率、罹病率、施設事項等を調査するに止める。

一、災害件數及災害率

安全週間中の災害件數は死亡一〇件、重傷休業四週日以上の者八八件、輕傷休業三日以上の者六一

四件、微傷休業二日未満の者二六九件、合計九八一件にして稼働延數一、〇〇〇人に對する割合は死亡〇・〇一二%、重傷〇・一〇四%、輕傷〇・七二四%、微傷〇・三一二%、合計一・二五六%に當り之を安全週間直前六箇月間の平均に比較すれば死亡は〇・〇〇三%を減じたるに過ぎざるも其の他の重傷、輕傷及微傷は悉く大略平時の二分の一の罹災者を出したのみである。又此の成績を前年の安全週間に比較しても概して良好の結果を示して居る。尙此等災害率を鑛種別に比較すれば前年安全週間の成績或は平時の災害率よりも不良なる結果を示して居るものなきに非ざるも、前述せる如く安全週間の舉行は將來に於ける作業上の安全竝に従業者の健康増進に對し恒久的効果を目的とする故、期間中の災害率のみを以て安全週間の効果を批判すべきでない。但し平時に比して事故發生率増加せるは少くも安全週間實施の方法其他に一層の改善を要する點ある事を示せる如く思料せられる。

鑛種別災害件數及災害千分率

災害區分	鑛種別件數					計	稼働延一、〇〇〇人當災害率(%)				
	金屬山	石炭山	石油山	其の 非金屬山 其他	計		金屬山	石炭山	石油山	其の 非金屬山 其他	計
死亡	一	一六	一	一	一六	〇・〇〇三	〇・〇〇八	〇・〇〇八	〇・〇〇八	〇・〇一八	
前年安全週間	三五	二九	三	一	三六	〇・〇〇五	〇・〇一七	〇・〇〇八	〇・〇〇八	〇・〇一五	
前六箇月間	一	九	一	一	一	〇・〇〇六	〇・〇一四	一	一	〇・〇一三	
安全週間中	一	九	一	一	一	〇・〇〇六	〇・〇一四	一	一	〇・〇一三	
重傷	三五	一五六	一	一	一六五	〇・〇四一	〇・〇三七	〇・〇〇九	一	〇・一八三	
前年安全週間	三五	一五六	一	一	一六五	〇・〇四一	〇・〇三七	〇・〇〇九	一	〇・一八三	
前六箇月間	三五	一五六	一	一	一六五	〇・〇四一	〇・〇三七	〇・〇〇九	一	〇・一八三	
安全週間中	三五	一五六	一	一	一六五	〇・〇四一	〇・〇三七	〇・〇〇九	一	〇・一八三	

死傷者数	輕傷		微傷		合計傷		稼働人員	
	前年安全週間	前六箇月間	前年安全週間	前六箇月間	前年安全週間	前六箇月間	前年安全週間	前六箇月間
四八	二七六	七〇	五三	三、〇七九	一〇八	六、二二五	一五、九七三	四、五七三、四一
六〇九	二八、九五七	五三五	二五七	一〇、八六五	一、〇三八	四、一三四	六八七、五五三	一七、〇三八、一三六
八〇二	三、八〇二	三	三六	二九	八四二	一、二八	六四八、九九	一七、〇三六、一三六
一六八	一六八	六	八	一〇一	一六	二九	七、三二〇	一四、五四〇
六六三	三、九三一	六四	三七	一、一六〇	九八一	五、七三	九〇五、三七四	一三、一六〇、八九五
〇、二四五	〇、五九四	〇、三九一	〇、二六五	〇、六七三	〇、六五九	〇、五五九	備考 統計期間左の如し	一九三、四三七
〇、八八六	一、七〇〇	〇、八二四	〇、三七四	〇、六三八	一、二九六	二、五九〇	一、前年安全週間	七、五三三
〇、二三八	〇、三三五	〇、三三四	〇、一〇一	〇、三三三	一、二九六	二、五九〇	二、前六箇月間	一、九三、四三七
〇、四二〇	〇、八六八	〇、七九〇	一、〇九四	〇、五三五	一、二九六	二、五九〇	三、安全週間中	一九三、四三七
〇、七三一	一、四四〇	〇、七三四	〇、三五〇	〇、六三五	一、二九六	二、五九〇	自昭和六年七月一日至同七月	七、五三三

(1) 金屬山

一、札幌地方

死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較	
	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	(一)對(三)	(二)對(三)
〇〇七	一	〇〇七	一	〇〇七	一	〇〇七	—	—

死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較	
	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	(一)對(三)	(二)對(三)
一	〇・二七四	一〇	〇〇七五	一	〇・一九七	—	—	
五	〇・八七三	七	〇五八〇	—	〇・三九四	—	—	
六	一〇・四七	一七	〇六七〇	—	〇・五九二	—	—	
七	一〇・四七	一三・六九七	—	—	五〇・六六	—	—	

二、仙臺地方

死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較	
	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	員數	稼働人員に對する千分率	(一)對(三)	(二)對(三)
二	〇・〇三四	七	〇〇四三	—	—	—	—	
三	〇・三九二九	一〇	〇五九六七	—	〇・一五三	—	—	
三	〇・三六九五	一、二一〇	〇七七八四	—	〇・三三九	—	—	
五〇	〇・五八五八	二、四三三	一、四四五六	—	〇・五〇五六	—	—	
八五、三四四	—	一、六八四、三五七	—	—	六五、二六七	—	—	

三、東京地方

稼働延人員 安全週間初日に於ける稼働者数	五三、五六八 一三〇、二五九	一三〇、四一〇 一〇八、六	五〇三、〇三四 九七、三四〇
-------------------------	-------------------	------------------	-------------------

(八) 石油山
一、札幌地方

災害程度	死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較		
		員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	(一)對(二)	(二)對(三)	(一)對(三)
死	亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
重傷	(休業四週以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輕傷	(休業三日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
微傷	(休業二日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働延人員		三〇七	一、三二九	一八	四〇八、六四〇	二四六	一、六〇八	0	0	0
安全週間初日に於ける稼働者数		三〇七	一、三二九	一八	四〇八、六四〇	二四六	一、六〇八	0	0	0

二、東京地方

災害程度	死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較		
		員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	(一)對(二)	(二)對(三)	(一)對(三)
死	亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
重傷	(休業四週以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輕傷	(休業三日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
微傷	(休業二日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働延人員		0	0	0	0	0	0	0	0	0
安全週間初日に於ける稼働者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0

災害程度	死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較		
		員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	(一)對(二)	(二)對(三)	(一)對(三)
死	亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
重傷	(休業四週以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輕傷	(休業三日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
微傷	(休業二日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働延人員		一三、二八三	〇、三六	三、五〇七	〇、二八	一、二〇六	〇、五三六	0	0	0
安全週間初日に於ける稼働者数		一三、二八三	〇、三六	三、五〇七	〇、二八	一、二〇六	〇、五三六	0	0	0

(二) 其他非金屬山

一、札幌地方

災害程度	死傷者数	(一)前年安全週間中		(二)前六箇月		(三)安全週間中		千分率比較		
		員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	員数	稼働延人員に對する千分率	(一)對(二)	(二)對(三)	(一)對(三)
死	亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0
重傷	(休業四週以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輕傷	(休業三日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
微傷	(休業二日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
稼働延人員		三三	一、九九三	四	四九、五五〇	二六六	一、五二七	0	0	0
安全週間初日に於ける稼働者数		三三	一、九九三	四	四九、五五〇	二六六	一、五二七	0	0	0

三、仙臺地方

災害程度	死傷者數		員數	自昭和五年十一月七日至同年十一月十七日	自昭和六年六月一日起至同年六月三十日	自昭和六年七月一日起至同年七月七日	千分率比較		
	死	傷					(一)對(二)	(二)對(三)	(三)對(一)
重傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輕傷	3	0	24	0.5642	1.33	0.2668	0.3393	0.3393	0.2634
微傷	8	1	93	1.5443	0.93	0.9044	0.9875	0.771	0.771
計	11	1	117	2.0685	1.7666	1.3666	1.3666	0.8773	0.6773
稼働延人員	5,382	2	2,084	143.87	247	176.66	263.33	56.49	91.67
安全週間初日に於ける稼働者數	899	0	143.87	60.76	94.5	60.76	94.5	60.76	94.5

災害率の増減狀況 安全週間舉行鑛山の各別につき災害率を比較するに全國鑛山の狀況は不明なるも、東京地方及大阪地方のみに就て調査せる所によれば左表に示す如く前年安全週間よりも減少せるもの大多數で、殊に死亡率及重傷率は之を増加せるもの一—三鑛山なるに對して四三—四一鑛山で減少して居る(但し週間中死亡者及重傷者皆無なるものは之を減に加算す)。

災害増減狀況(東京地方及大阪地方)

二、罹病率

安全週間中の罹病件數(人員)は死亡者一七件、新患者六、五五三件にして、在籍従業者延數一、〇〇〇人に對する患者割合は死亡者〇〇一六%、新患者五八五—%に當り之を平時(安全週間前六箇月間の平均)に比較すれば死亡率は〇〇〇一%を減じたるに過ぎざるも新患者は約三分の一(二、八九八%)を減少して居る。而して之を鑛種別に見るも金屬山にて死患者稍増加せる以外は各鑛種共に著明なる罹病率の低下を認める。

災害種別	鑛種別増減		前年安全週間比較	前六箇月比較	記	事
	增	減				
金屬山	增	減	一	三	金屬山一、石炭山一、は調査報告なし、又金屬山二は前年の安全週間に参加せず	
石炭山	增	減	二	三		
石油山	增	減	一	一		
計	增	減	一	三		
死亡	一	一	一	一		
重傷	一	一	一	一		
輕傷	二	三	二	三		
微傷	九	三〇	二	三		
死亡	一	一	一	一		
重傷	二	三	二	三		
輕傷	二	三	二	三		
微傷	九	三〇	二	三		

鑛種別罹病件数及罹病千分率

鑛種別	罹病件数(人員)		任籍従業者延1,000人當罹病率(%)		在籍従業者延人員	
	死亡者	新患者	死亡者率	新患者率	前六箇月間	安全週間中
金屬山	前六箇月間 安全週間中	前六箇月間 安全週間中	前六箇月間 安全週間中	前六箇月間 安全週間中	前六箇月間 安全週間中	前六箇月間 安全週間中
石炭山	二一八	六	〇・〇三二	七・八〇七	五・二七六	三三・二一九
石油山	三七二	二	〇・〇六六	九・六六九	六・四四六	八六・九四三
其他非金屬山	四	七二〇	〇・〇〇七	一・三四六	〇・九九四	三〇・二一八
合計	四九九	一、四六七	〇・〇二五	五・九九三	二・二二九	一、二〇、〇六三

(イ) 金屬山

一、札幌條方

患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	増	減
新患者死亡者	三	〇・〇一九	一	二七・六〇	〇・八九六	〇・一九
舊患者死亡者	二	一八・四四	一	〇・七三	〇・六一	
在籍鑛夫延人員	一七、七三三	一一・七九	五、七七七	七六・六	六四・三七	

二、仙臺地方

患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	増	減
新患者死亡者	一七	〇・〇八九	一	三・三六五	〇・〇八三	〇・〇八九
舊患者死亡者	一三、二五	六九・五三九	一	〇・三六	七四・九九	三五・八四
在籍鑛夫延人員	一九〇、三四九	〇・四六四	七三、三六八	七九・五九八	七四・九九	

三、東京地方

患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	員數	在籍鑛夫延人員に對する千分率	増	減
新患者死亡者	三	〇・〇三三	一	〇・〇一五		〇・〇一七
舊患者死亡者	一三、六三五	八〇・一八	一	五・七九五	〇・〇三三	二・二二三
在籍鑛夫延人員	一、六九九〇・三八	〇・五〇	六六、〇八三	一七・〇五一	一六・四九一	

四、大阪地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍夫延人員に對する千分率	員數	在籍夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	三〇	〇・一三	一	〇・一七	〇・〇四	—
其の他者	一四、三三〇	九・三三	四四八	七・七六	—	—
舊患者 死亡者	二	〇・〇一	—	—	—	—
其の他者	七三	〇・四八	八五三	一四・七四	—	—
在籍礦夫延人員	一、五三、一九三	—	五七、七四九	—	—	—
新患者 死亡者	四	〇・〇九	一	〇・五五	〇・四六	—
其の他者	三、三三七	七・四二	七三	四・〇四	—	—
舊患者 死亡者	一	〇・〇一	—	—	—	—
其の他者	三〇三	〇・四四	二一〇	二・五七	—	—
在籍礦夫延人員	四三、六八九	—	一八、四三三	—	—	—

五、福岡地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍夫延人員に對する千分率	員數	在籍夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	四	〇・〇九	—	—	—	—
其の他者	三、三三七	七・四二	七三	四・〇四	—	—
舊患者 死亡者	一	〇・〇一	—	—	—	—
其の他者	三〇三	〇・四四	二一〇	二・五七	—	—
在籍礦夫延人員	四三、六八九	—	一八、四三三	—	—	—

(口) 石炭山

一、札幌地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍夫延人員に對する千分率	員數	在籍夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	一三	〇・〇三	—	—	—	—
其の他者	二、三三六	五・八二	六四	四・六七	—	—
舊患者 死亡者	二	〇・〇三	—	—	—	—
其の他者	六〇、六九	一・六七	二、九三四	三・三三	—	—
在籍礦夫延人員	三、六六、八九	—	一三、一〇九	—	—	—

二、仙臺地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍夫延人員に對する千分率	員數	在籍夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	一〇	〇・〇七	—	—	—	—
其の他者	六〇、三三	四・二二	二六六	五・〇三	—	—
舊患者 死亡者	三	〇・〇二	—	—	—	—
其の他者	八、七三〇	〇・六六	三、一八四	六・一九	—	—
在籍礦夫延人員	一、三五、七五六	—	五、八九三	—	—	—

三、東京地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	1,243	0.015	3	0.007		0.011
其の他	1	0.001	1	0.001		1.069
舊患者 死亡者	91	0.005	9	0.003		
其の他	9	0.004	4	0.002		
在籍礦夫延人員	20,317		6,901			

四、福岡地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	256	0.014	3	0.004		0.010
其の他	136,205	0.004	4,433	0.009		0.020
舊患者 死亡者	74	0.004	6	0.009		
其の他	2,755	0.016	8,777	0.045		
在籍礦夫延人員	18,785		6,780			

(八) 石油山

一、札幌地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	4	0.003	4	0.007		1.380
其の他	4	0.003	4	0.007		
舊患者 死亡者	7	0.026	1,618			
其の他	43,271					0.161
在籍礦夫延人員	43,271					

二、仙臺地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	員數	在籍礦夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	1	0.006	8	0.034		0.008
其の他	298	0.013	1	0.004		0.579
舊患者 死亡者	8	0.054	21	0.076		
其の他	14,010		5,573			
在籍礦夫延人員	14,010		5,573			

三、東京地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	三	〇〇六	一	〇六八		〇〇六
其の他	三四	一〇七八	八	〇六八		〇四七〇
舊患者 死亡者	一	〇〇三				〇〇〇三
其の他	三六	〇二二	三〇	三三二		
在籍職夫延人員	三四三・七六		一二・九三七			

(三) 其他非金屬山

一、札幌地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	一	〇〇七	一〇	六〇六		〇〇一七
其の他	三三	五四八〇				
舊患者 死亡者	七	〇一九	六	三六〇		三四九
其の他	五八・七三		一・六六一			
在籍職夫延人員						

二、仙臺地方

罹病者別 患者數	前六箇月		安全週間中		千分率比較	
	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	員數	在籍職夫延人員に對する千分率	増	減
新患者 死亡者	五	〇〇二六九	九	一・三四六〇		〇〇二六九
其の他	一二四五	六・五五三				四九〇九三
舊患者 死亡者	一	〇三七〇九	六五	八九九九〇		八六一九二
其の他	六九		七・三三			
在籍職夫延人員	一八六・〇六					

三、安全週間中の施設事項

安全週間中の施設事項概要は既述せるも其の件數は危害豫防施設の修理、改造又は新設一、三六七件、保健衛生設備の修理、改造又は新設六四一件、火災豫防設備の修理、改造又は新設二二八件、従業員の指導訓練一四九件、其の他一般的施設四三四件、總計二、八一九件に達して居る。但此等の施設が安全週間に於ける災害率又は罹病率の低下に對して幾許の成績を示し得たるや不明なるも、必ず將來に於ける災害の防止、従業者健康の増進、能率の向上に効果あるべきものと認められ、且つ此等各般の施設の完備を期するは安全週間舉行の目的達成に最も重要なりと思料される。

鑛夫住宅採光施設改造	1	5	救急用材及器具修理	7
鑛夫住宅の大掃除	4	4	救急用材の新設	1
便所の設備改造	1	4	水泳場の新設	1
便所の設備改造	1	4	水泳場の新設	1
坑内便所の新設	2	1	飲料水の供給場の改造	1
下水の掃除	6	3	飲料水の供給場の修理	1
下水の掃除	1	6	飲料水の供給場の修理	1
救急用材の改造	1	3	作業場附近食堂、休憩所、洗面所新設	1
救急用材の改造	1	3	その他	1
合計	10	32	合計	30

五、福岡地方

鑛夫住宅の修理改造	2	3	鑛山數	2
作業場附近食堂、洗面所等浴(浴場ヲ含ム)修理改造	1	3	鑛山數	2
救急用材料及器具の修理並に増設	1	3	鑛山數	2
下水、飲料水、供給場の修理、改造	2	1	鑛山數	2
下水、飲料水、供給場の増設又は新設	1	2	鑛山數	2
運動場の修理	1	2	鑛山數	2
治療所の新設	1	2	鑛山數	2
合計	2	6	合計	24

便所の修理並に新設
其の他の修理改造

二一

二一

二二

二三

二三

二三

(八) 火災豫防設備の修理、改造、新設

一、札幌地方

消防器械の修理	1	1	鑛山數	1
消防器藥品の取替	1	1	鑛山數	1
共同浴場の釜修理	1	1	鑛山數	1
ハンドポンプ新設	1	1	鑛山數	1
ホース新設	1	1	鑛山數	1
布バケツ新設	1	1	鑛山數	1
頭巾新設	1	1	鑛山數	1
煙突修理	1	1	鑛山數	1
ピストル型消火器新設	1	1	鑛山數	1
安全ローソク立新設	1	1	鑛山數	1
火防用バケツ、スコップ、唐鍬新設	1	1	鑛山數	1
合計	1	5	合計	15

五、福岡地方

施設事項	金 屬 山		石 炭 山		合 計
	件数	人員	件数	人員	
消火器の修理、改造	—	—	—	—	—
消火器の増設又は新設	—	—	—	—	—
貯水池の新設	—	—	—	—	—
消火用微砂の常備	—	—	—	—	—
藁葺納屋に亜鉛板の包被	—	—	—	—	—
火用心の巡回會	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—

(三) 従業員の指導及訓練

一、札幌地方

施設事項	金 屬 山		石 炭 山		合 計
	件数	人員	件数	人員	
消防機械修理	—	—	—	—	—
消防隊演習	—	—	—	—	—
消防演習及放水試験	—	—	—	—	—
救護法講習	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—

二、仙臺地方

施設事項	金 屬 山		石 炭 山		合 計
	件数	人員	件数	人員	
消防訓練	—	—	—	—	—
救急法の指導	—	—	—	—	—
救護作業の講習	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—

備考 計欄の△印は鑛山の實数とす

三、東京地方

施設事項	金 屬 山		石 油 山		合 計
	件数	人員	件数	人員	
救急隊	—	—	—	—	—
消防隊	—	—	—	—	—
警備	—	—	—	—	—
運動	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—

備考 (イ)消防演習の項中足尾、神岡鑛山は人員不明に付其の数を加算せず

(ロ)運動の項中足尾鑛山は人員不明に付其数を加算せず

四、大阪地方

施設事項	件数	
	鑛山	金
防火演習	九	九
合計	四四六	四四六

五、福岡地方

施設事項	人員	
	鑛山	石炭
救急法の講習	二二	二二
消防の練習	一五	一五
危害豫防に付指導訓練	二、九四〇	二、九四〇
保健衛生に付指導訓練	一、七九〇	一、七九〇
講演會並に活動寫眞による災害防止思想の注入	三二	三二
運動競技の指導並に運動精神の鼓吹	一、三三〇	一、三三〇
安全見廻委員に依る現場作業の指導	一、四五〇	一、四五〇
危害豫防法注意事項書の配布による指導	七	七
合計	一、六七〇	一、六七〇

(本) 其の他一般的施設
一、札幌地方

施設事項	件数	
	鑛山	金
安全マシク佩用	二	二
前回の負傷率発表	一	一
運動會開催	一	一
保險法實施以來無病者表彰	一	一
美化作業出動	一	一
安全腕章及肩章佩用	一	一
災害事故原因揭示	一	一
安全全賞	一	一
安全全祈禱會	一	一
安全全座談	一	一
坑口修祓	一	一
實績速報	一	一
安全全誌記	一	一
安全全語募集	一	一
安全全文藝募集	一	一
ものはづけ、川柳、都々逸、なぞとき募集	一	一
服裝検査	一	一
火具捜査	一	一
無事故者賞	一	一
合計	三三	三三

89

322

終

